

■ はじめに

副委員長 宇佐美 泉

今年も残すところあと僅かとなりました。この一年間皆さんはどうでしたでしょうか？ 昨年のリーマンショックによる世界同時不況で、日本も不況の嵐。建築業界も言うまでもなく、一向に良くなる兆しが見られません。これからどうなるのでしょうか。と嘆いていると暗くなるので・・・

こんな時だからこそ、「健康が何よりの財産」とつくづく思う今日この頃です。

先日、趣味の畑仕事をした翌朝、起き上がろうとしたら腰に激痛が・・・一週間ほどまともに体を動かすことができず、日ごろの運動不足と健康のありがたさを身をもって痛感しました。(現在は完治しています)

お互いに、体には充分気をつけて「健康第一」で年を越したいものですね。

ちなみに、我が家の菜園には現在、大根・春菊・ねぎ・ほうれん草・小松菜が育っています。先日は玉ねぎの苗入れと、えんどうの種まきをしました。とても楽しいですよ～♪



■ 今回の記事

- はじめに
- 今後の予定・お知らせ
- 赤坂の古い町並み見学会報告(H21, 4, 25)
- 東海北陸ブロック前期 三重会議報告(H21, 6, 27)
- 全国女性建築士連絡協議会 長野大会 報告 (21, 7, 17~18)
- 第29回 建築文化講演会報告(H21, 9, 5)
- 勉強会
 - 第1回(H21, 5, 28)
 - 第2回(H21, 8, 27)
- 第52回 全国大会やまがた大会報告 (H21, 10, 16~17)
- 編集後記



■ 今後の予定・お知らせ

- ◆ 気楽にらくだ会
 - 日時:平成22年1月16日(土)
 - 会場:高山市 ひとまちぶら座 かんかこかん 高山市内まちなみ・建物見学
- ◆ 東海北陸ブロック後期
 - 日時:平成22年2月27日(土)・28日(日)
 - 会場:福井県小浜市

赤坂の古い町並み見学会報告

日時：平成20年4月25日(土)
会場：大垣市赤坂町内
参加者：6名

赤坂の古い町並み見学会に参加して

森崎麻充

4月25日午後、私たち女性委員6名は、大垣市赤坂町に到着しました。

前日の晴天とは打って変わって、朝から強い雨が降っており、せっかくの町並み見学なのにと、少し残念な気持ちでした。

最初に立ち寄りました赤坂港会館をひと目見てびっくり、頂上装飾が載った白いハイカラな明治の洋風建築です。早野監事様から、これは、明治8年に建設された警察署を緻密に調査し復元したものであることを聞きました。また、当時の建物に使われていた屋根の装飾など、現存する貴重なものを見せていただき、三階にも上がり、眺望を楽しみました。

続いて、赤坂ボランティアガイドセンターの代表、折戸様の先導で、古い町並みの見学に出発しました。

赤坂港跡、赤坂本陣公園、赤坂宿と道標、矢橋邸など、多くの歴史的な建造物などが中山道沿いにあります。

和宮一行の宿泊地となり、姫普請と呼ばれる万古型の家が、当時突貫工事で立てられた話は、折戸様のユーモアラスで軽快な語り口と歴史がマッチし、本当に楽しく聞くことが出来ました。

中仙道を歩きながら、遠い和宮に思いを馳せ、(自称)姫気分で、いつしか町並みを散策していました。

御茶屋屋敷の牡丹園は、今がちょうど見頃で、たくさんの花でいっぱいでした。雨の水滴が牡丹の花びらに付いてキラキラと光り、晴天では見られない趣の違った美しさを見ることができました。

見学の途中では、折戸様の個人的なコレクションの化石を色々見せていただき、金生山の地質や岩盤そして赤坂石の特徴など、多くの石に関する知識を教えてくださいました。

雨は、見学の間ずっと降り続いていましたが、建造物それぞれの持つ歴史の面白さに引き込まれて、全く気になりませんでした。

今回参加したことで、赤坂宿の歴史を更に深めて知ることができ、私にとって大変有意義な見学会でした。

このような企画、手配をしていただいた女性委員会の皆様に感謝いたします。



赤坂港会館内にて全体の説明を受ける



姫普請の建物



御茶屋屋敷の牡丹園にて



化石コレクションの見学

■ 建築士会東海北陸ブロック会 女性建築士協議会

平成21年度前期定例会議 三重会議

日時:平成21年6月27日(土)

会場:六華苑 (桑名市大字桑名字鷹羽663番の5
電話0594-24-4466)

参加者:5名

■ 平成21年度前期定例会議報告

下川 滝美

今回は、三重県建築士会副会長松本氏を来賓に迎えての会議で今までの会議と少し違いました。男性の目から女性委員会の活動についていろいろ興味をもたれ事業に対する質問も受けました。岐阜の活動報告については「トイレ調査」と「気楽にらくだ会」について質問を受けました。トイレ調査の活動の場は？気楽にらくだ会のネーミングの意味は？など。次回の高山大会へ向けてトイレ調査も順次まとめていきたいと思いました。

運営委員長西田さんから連合会、ブロック本会の報告がありました。

女性建築士協議会内に静岡県が入っているが今後は静岡に女性委員会がないために削除されることになりました。その他運営委員長は全建女への出席とブロック会での運営委員長と兼ねているために仕事の量がとても多い。以前は二つに分かれていたが連絡がとりにくいということからおひとりの方になったという経緯があるが担当県の判断により融通性をもたすことにする。

ブロック事業委員は名簿から削除される。

今回の会議の内容についてマニュアルも訂正する。

後期ブロック福井会議は、小浜市で開催。(海の幸が美味しいそうです)

ブロック事業の担当は石川県。「子育て支援のバリアフリーについて」の発表が予定されています。

相談役の脇本さんから、女性建築士の活動も自己研鑽だけでなく今後は公益法人に移行することからも公益的な活動が期待されると講評がありました。



集合写真



会議風景

■ 懇親会に参加して

河内 美代子

六華苑にあるレストランで開催された懇親会は、三重県の方々がいかに創意工夫を凝らしておもてなしをしてくださったかが伝わってくるもので、大いに食事でも会話も楽しませてもらえました。

いつもはバイキング形式のことが多いのですが、今回はフレンチのフルコースをゆったりとサービスを受けながら(フォアグラのムースのアントレ+赤ワインをいただいている前や横の人が羨ましかったです!!でもウーロン茶でも充分!)美味しくいただきました。

席はあらかじめ、受付で振ってあった番号で座ったのですが、デザートに入る前にアトラクションと称して、席替えがありました。方法はピアノの生演奏が止まったら、指示に従い、着席というもので「〇〇月生まれの人々は手近な席にお座りください」というものでした。あっ、これはもしかしたら6月生まれの人を最後に残すためだったかと思いましたが、普通に全員シャッフルして着席。すると、テーブルに印がしてあった2グループが前に招聘選出されました。そのテーブルに腰掛けた人たちは「何か、プレゼントでももらえるのかしら」とみんなで拍手しました。すると、なんと!準備してあった曲から選んで即席のコーラスをするというものでした。大いに楽しませてもらいました。

その後はシャッフルした席の方々とデザートでまた懇親会。お金をいかに節約して(ピアノの生演奏はずっとあり、これだけは依頼されたようです)、皆さんに食事と会話を楽しんでもらうかを10名のスタッフで工夫された様子が伝わってきました。多くの方々といろいろな話もでき、まさに「懇親会」でした。

三重県さん、ありがとう。



乾杯の様子



コーラス風景

■ 全国女性建築士連絡協議会 長野大会

日時:平成 21 年 7 月 17 日(金)～18 日(土)

会場:若里市民ホール

(長野市若里3丁目22番2号

電話026-223-2223)

長野市生涯学習センター

(長野市鶴賀高畑752-8

電話026-225-7800)

テーマ:

『「地域と共生する住環境づくり」～建築における「環(WA)を考える～」』

参加者:4名

■ 全国女性建築士連絡協議会全体を通して

下川滝美

「地域と共生する住環境づくり」
～建築における「環(WA)」を考える～

●7月17日

◆開会式 若里市民文化ホール

長野市も高山市と同じくコンベンションシティです。
長野オリンピックの時に建てられた施設であるビックハットの隣の施設、若里市民文化ホールでの開催でした。

総勢422名の参加者で過去最高でした。

全建女は今年が20年の節目の年ということです。

◆基調講演

テーマ「ふるさと信州・環の住まい」とその背景」

講師 吉田倬郎氏

◆パネルディスカッション

テーマ「建築における「環(WA)」を考える・建築における「環」と「産・官・学・民」のネットワーク」

●7月18日

◆分科会

◆閉会式

分科会発表も本大会テーマである環を考えての発表となりました。

環を通していろんな立場の方々がネットワークを組むことで新しい発見もあることや、新しいものばかりでなく、古くから伝わるものを大切にしそこからまた新しいものが生み出されるという循環も大切だと思いました。

【今年度の連絡協議会の成果としてのアピール】

- 1.私たちは、今回の協議会を通し、住まいづくり・まちづくりの専門家として、地球規模の環境問題に直面していることを踏まえ、環境と共生する豊かな居住生活を再認識し、それぞれの地域での暮らしを見直しながら、改めて住環境のあり方を考え提案していきます。
- 2.私たち女性建築士は、専門職としての社会的に責任の重い業務を担いながら、地域に根ざした暮らしや活動の中から発見できる問題に対して、専門家と生活者の双方の視点から提案や提言によって、「地域と共生する住環境づくり」に努めます。
- 3.私たちは、こうした活動の実践にあたっては、異業種の専門家との連携や協働を図るとともに、地域団体・企業・行政・市民をも含んだ実践的で信頼される諸活動を展開し、安全で安心な暮らしを維持できる社会の実現を目指します。

今回の全体を通して感じたことは、地域の中で暮らす女性委員が地域の一員としてできることがたくさんあるのではと思いました。

これから公益法人となっていく中で、私たちの役割はまだまだあることに気が付きました。



会場前で集合写真



開会式

■ 「基調講演を聴いて」

飯沼あい子

「ふるさと信州・環のすまい」と題して吉田倬朗氏(工学院大学工学部建築学科教授)の講演を聴きました。日本建築の伝統は木造にありますが、戦後は非木造の割合が増大し、それでもバブル以降は住宅の45%が木造で推移しているのは日本建築の伝統や環境・地域経済への関心が支えているのでしょう。その中で長野県は「ふるさと信州・環のすまい」を策定し県産材使用の促進事業と信州型エコ住宅事業を継承されているとの事でした。具体的には、前者は、県産材を一定の割合以上用いる住宅に補助金を出すもの。後者は、県内の事業者グループから提案を募り優れた案を認定するものだそうです。よって、地元の事業者がグループとなって活性化につなげるために、行政が後押しをする。という動きについての話でした。

■ 「パネルディスカッション 建築における「環」と「産・管・学・民」のネットワーク」を聴いて

飯沼あい子

引き続きコーディネーター 高木直樹氏(信州大学工学部建築学科教授)とパネリスト吉田倬朗氏(工学院大学工学部建築学科教授)・市村良三氏(長野県小布施町町長)・石川利江氏((有)ISHIKAWA地域文化企画室代表取締役)・出澤潔氏((社)長野県建築士会名誉会長)によるパネルディスカッションがおこなわれました。各氏はそれぞれ立場の違う分野から長野県の町おこしに係わってこられた事を紹介されました。日本中いたるところで町並み保存や地域活性化が問題となっていますが、うまく機能しているところは少なく、簡単ではありません。各氏の話の聴いていると成功例では、まず突拍子もないアイデアが出され、行政がうまく拾い上げ、若い力(大学生)の力を借り、底に住む住民が行動する。という流れになっていました。パワーのある事ですが、ちょうど川の流れのように上手く流れることが大切だと思いました。



パネルディスカッションの様子

■ 懇親会に参加して

伊藤 麻子

懇親会は長野駅近くのメルパルクで行われました。広くて大きな吹き抜けのエントランスのホテル、結婚式も多く行われるようで、中々華やかな雰囲気です。長野県建築士会の方々に出迎えていただき、緊張と興奮でわくわくしてきました(全建女は初めての参加なのです)。

総勢 400 人という大規模な会となり、比較的隅のテーブルだった私たちには開場の向こう側が良く見えないくらいでした。同席したのは千葉県の方々です。

アトラクションは諏訪神社の御柱祭りと善光寺の木遣り唄でしたが、どちらも歌いだしの人の声がとても甲高く細いので、驚きました。珍しかったです。

地元産のワイン、焼酎、日本酒などお酒の種類が豊富にあって、楽しめました。

散会のときも地元の方に見送っていただき、その方たちの安堵して充実した表情でこの会の運営の大変さを伺い知ることができました。長野の皆さん、ありがとうございました。



懇親会の様子

■ A分科会 「循環型社会」に参加して

飯沼あい子

暮らしについてのエコとも取れる言葉ですが、前日の建築における「環」という事でした。京都府女性部会が発表された実践報告を聞いて、岐阜県の今後の活動の参考になると思いましたので、紹介させていただきます。見つめて京都というテーマの下で、祇園祭りの際の観光客のためのトイレ確保に近くのオフィスビルのトイレを使わせてもらうお願いをし当日は人員整理とトイレの清掃活動をされました。その後宝ヶ池公園のトイレ改修業務を行政から受け、その事業がヒューマンかざぐるま賞受賞となり、賞金が出たそうです。次にその賞金で環境ストーリー「森のなりたち」の幼児本を作成した後、それを元に小学校に出向き建築や環境についての授業を受け持たれたという報告でした。まさに持続する実践活動であると思いました。

■ D分科会「建築物の再生活用」に参加して

伊藤 麻子

佐賀県から鹿島市肥前浜宿の伝統的建造物群保存地区の修理、まちなみ整備計画についての発表で、築 180 年の茅葺、土壁の建物を発表者自信が買い取り、修理をした経緯が報告されました。熱意は感じられたものの、活用には至っていないということだったので、テーマに沿っていないし、残念でした。前日のパネルディスカッションで「地域の活動をするには、アンテナを広げて、幅広い視野を持って…」というようなお話がありましたが、これが活用のヒントになるのでしょうか。

この後の意見交換では、やはりという感じで修理費の出所が大きな課題とされ、この伝建地区では、年間 5000 万円の補助金があるとのこと、それも十分ではないが、他地域と比べると、大変恵まれているぞ！という意見が多くありました(私も同感)。

各地で価値のある建造物や町並みが老朽化や時代の変化で失われつつあります。

それをなんとか食い止め、生かして行きたいという意志の人(女性建築士)が全国から集まった会でしたが、白熱した意見交換は頼もしく、私もまたこれらの活動に積極的に関わっていきたいと思いました。雨模様の 2 日間でしたが、晴れ晴れとした充実感で満たされて帰りました。

■ E分科会「歴史的な建物とまちなみ」に参加して

長瀬八州余

■コメンテーター:

八田慎蔵 氏(長野市松代町)

八田家は、真田家松代藩に仕える御用商人として栄え。現在 300 年の歴史があります。八田家住宅の母屋は明治 30 年の建築で、大土蔵は江戸後期のものです。その他、土蔵、長土蔵、塀、表門も明治 30 年頃に建てられました。平成 17 年 12 月に国登録有形文化財に指定されています。1 1 代目の御当主八田慎蔵氏より、歴史ある建物を守り継ぐための維持管理等についての話。

松浦由希 氏(北海道建築士会)

小樽市の歴史的な建物や町並みに対するいろいろな関わり方と、それぞれの取り組みや活動について事例の紹介。

2 氏の発表の自分たちの活動や問題点の話し合いをおこないました。

皆さんの保存したいという思いは強いのですが、実際問題、保存していくことは大変な事であり、住民・民間・行政等が上手に連携していかなくては難しい。上手に連携するにはどうすればいいのか、ケースバイケースで正解がわからない。

初めてこの分科会に参加させていただきましたが、難しい問題で堂々巡りのようです。

■ F 分科会「子供と住環境」に参加して

下川滝美

■コメンテーター

福島県建築士会

「子供と歩く歴史の街～街並みウォーク」

会津という歴史ある街並みを子供とウォーキングすることにより 普段なにげなく歩いていた通りに面白い建物や不思議な建物に感動したり、商店街のおじさんやおばさんに声をかけられる幸せを体験した活動の報告。

長野県建築士会

「子供の安全を考える～遊具施設の安全検証」

子供対象の室内アスレチック施設でのデモンストラーションを実施し、オープン前に遊具の安全検証を行った活動を遊具施設の現状、問題点をはじめとし、子供目線を通して大人が気がつくことがあるということ等を報告。

2 士会の発表のあと参加者が一言ずつ県単位の活動や個人的にしている活動を報告しました。

石川県は、子育て支援のバリアフリーに取り組んでいること。富山県・東京都・青森県・秋田県など子供と家づくり、折り紙建築などを通して実際にカッターなどを使って模型などを作っている県。

また、家庭科の授業を受け持ち子供たちの住まい教育に携わっている県など様々なかわり方が発表されました。岐阜県はトイレ調査を通じて子育て支援での調査に発展している事。個人的には子供たちと福祉マップを作成していること。小学校でのバリアフリー教育のお手伝いをしていることなどをお話させていただきました。

子供たちの気づきの素晴らしさや学校教育の中で私たちにできることがあることなどを再確認した分科会でした。

■ エクスカーション Bコースに参加して

長瀬八州余

エクスカーション B コースは「遊学城下町・信州松代体感コース」です。

40名弱の参加者で北は秋田から南は熊本までの広範囲の方々が集まりました。

閉会式後直ぐにバスに乗ってまずは松代へ移動して昼食です。竹風堂松代店にて栗おこわ弁当を頂きました。



松代藩文武学校では弓道体験と琴体験の 2 コースが用意されており、時間の都合上事前にグループ分けがしてあり、私は弓道体験コースでした。40分の時間しかなく、本当に弓に触るだけでしたが、模範演技の男性は 20 年以上やってみえる方で、デモンストレーションの試技では 2 本ともの真ん中に命中でした。見学者一同拍手です。

松代藩文武学校は松代藩が設けた文武併習の学校として1855(安政2)年に開校。建物は1853(嘉永6)年に作られたものです。



徒歩にて国の需要文化財の「旧横田家住宅」へ向かいます。



「旧横田家住宅」は趣のある茅葺きの屋根を持つ主屋、表門、隠居屋と二つの土蔵からなり、松代藩で郡奉行等をつとめた中級藩士の暮らしがうかがえる建物です。

旧横井家住宅には語り部の方がいらっしゃって、今回は同じ女性ということで松代出身の松井須磨子のお話を聞きました。



次は八田家住宅へ向かいます。

E 分科会のパネリストとしても今回の全国大会に参加して下さった、八田さんのお宅です。



一般には公開していないのですが今回は八田さんのご厚意で建物内部も見せていただくことができました。前日のパネリストの石川さんも来て下さいました。

私個人としては、今回、期せずして、同じテーマで二日間見て回ることができより理解が深まったとおもいました。

パネルディスカッションの石川さんのお話は松代での関わりの話が主でしたし、E分科会では松代の八田さんがパネリストで見学会では実物の八田邸を見学することができました。

松代での取り組みは今まで点として存在していた建物をつなぎ、線にして次は面にして保存していこうと考えているということです。

半日という限られた時間の中で盛りだくさんの見学をしました。担当の方は準備から当日の案内まで本当にありがとうございました。有意義な見学ができました。

■ 建築文化講演会

日時:平成21年9月5日(土)14:00~17:00
会場:岐阜県未来会館 ハイビジョンホール
(岐阜市学園町3-42 電話058-293-0888)

講師:建築家 手塚貴晴氏、手塚由比氏
演題:『なつかしい未来—Nostalgic Future』

■ 文化講演会に参加して

長瀬 八州余

今回の講演会は整理券の申し込みが多く、席が大丈夫だろうかと、事前に補助席の用意をしていました。200余名もの参加をいただき、例年になく盛況で、受付では一時、列ができるほどでした。貴晴氏は青、由衣氏は赤で、上のお子さんは黄色、下のお子さんは緑色でした。お子さんは、未来会館の託児所に預けての講演会です。代表的な作品の写真や動画を使つての説明をさせていただきます。お互いの説明を補いつつ話を進めていけました。今までの講演会は一人の講師でしたが、今回はご夫婦二人なので、途中でリズムが違って来るので、聞きやすかったです。



受付風景



講演

■ 勉強会

■ 第1回勉強会

日時:平成21年5月28日(木) 13:00~14:30
場所:岐阜総合庁舎 3階 西2会議室

参加者:14名

岐阜県出前トーク

講師:建築指導課 河野氏

テーマ「最近の建築士法改正について」

勉強会に参加して

下川滝美

勉強会は県職員による出前トークで男性の士会会員の方にも参加していただき14名で講習を受けました。

講師の河野様の軽快なトークで難しい内容でしたがとてもわかりやすく時間も1時間半と延長をしてじっくりと勉強できました。トークの内容は国土交通省から各建築士事務所に送られているパンフレットに基づいて説明を受けました。

①紫色の「新しい建築士制度がスタートしました」

定期講習は年度を基準に3年毎に 管理建築士講習は平成23年11月27日までにがポイントです。

②緑色の「重要事項説明及び書面の交付について」

説明の概要や書面交付の概要を参考にして交付して下さい。③青色の「構造設計一級建築士制度 設備設計・・・について」平成21年5月27日制度がスタートしました。

平成21年11月27日からは設計時期、当初設計・設計変更の別に 関わらず関与が必要ということで注意が必要です。改正の詳細については建築指導課のホームページやメールリスト等でも 随時お知らせいただけるということです。



■ 第2回勉強会

日時:平成21年8月27日(木) 13:30~15:30

場所:岐阜総合庁舎 1階 南1会議室

参加者:13名

岐阜県出前トーク

講師:岐阜県森林整備課 間伐担当チーフ 藤掛雅洋氏

内容:「森林づくりに間伐材が果たす役割」

勉強会に参加して 高野 栄子

今回の勉強会は森林と間伐材についての話です。建築と木材とは切っても切れない物ですので、材料としてだけでなく、森、木そのものについて考えることができるいい機会でした。講師は県の森林整備課の藤掛さんでした。>

ご本人が自ら撮影された、岐阜県内のあちこちの森の写真を見ながら、参加者の意見を交えて、森の現状を話し合いました。下草の生えた明るい森や、うっそう

と針葉樹がしげって薄暗い森、うつしい棚田の風景などみなさんの考えを元に様々な森林に関する問題や、木材の値段が安くて林業が成り立たない事、手入れする余裕もなく荒れ果てた森、間伐をすべて県の補助金で行っていることなどいろいろな地域の現状を説明していただきました。

木が川上から川下へ動く中、私たちはいつも川下のほうで木にかかわってきました。けれど川上では深刻なことがおこっている事を、実感しました。

これからもこのように、直接建築に関する事以外にもいろいろ話を聞く機会があると見識を深める為にもいいと思いました。大変勉強になりました。



■ 第52回 建築士会全国大会

やまがた大会

日時 平成21年10月16日(金)~17日(土)

参加者 2名

10月16日(金)

大会 山形市総合スポーツセンター

(〒990-0075 山形市落合町1番地

TEL.023-625-2288)

懇親会 パレルグランデール

■ やまがた大会参加報告

小林 教子

第1日目 10月15日(木)

東海道線幹線で東京まで行き、山形新幹線に乗り換え、まずは前泊予定のかみのやまへ向かいました。

かみのやま温泉駅をおり、まちづくりセンターで案内図と道案内を受け、武家屋敷通りに歩いていきました。紅葉には少し早いようですが、やや色付き始めた秋の風景を楽しみながら着いた武家屋敷通りは、ひなびた東北の雰囲気を残した藁葺屋根の建物が4軒並んでいました。庭には秋明菊・ホトギス・紫苑が咲き乱れ、水琴窟を備えた屋敷もありました。

その後沢庵禅師の草庵・春雨庵へ向かいましたが、途中足湯につかり(足湯は5箇所あるそうですが、ここは結構熱かった!)疲れが少し取れたようでした。残念ながら春雨庵は屋根の吹き替え中で、沢庵禅師の像は拝めませんでした。本格的なお茶室が2棟あり見学できました。

宿の葉山館で温泉につかり、少し贅沢な夕食を楽しみました。もちろん芋煮も味わってきました。



足湯に浸かって

第2日目 10月16日(金)



山形駅に着くとシャトルバスで会場の山形総合スポーツセンターへ向かいました。電車の都合で会場に早く着いたので、まずは山形名物を眺め、早々に土産をゲットし宅配の手配を済ませ、心置きなく武道館のまちづくり交流プラザを見て歩きました。いつものように投票のシールを貼り、その後女性委員会の「クイズ知ってるつもり」に参加です。岐阜県からは素材に関する3問の問題を出したそうですが、3問とも採用されていました。

小林は第1回に参加し、3問目であえなく撃沈。その後関係している岐阜県のNPOのブースのお手伝いをしている間、長瀬さんはめでたく商品をゲットしていました。

昼食はいつものお弁当ですが、山形名物芋煮の無料ふるまいがされていました。



その後、再度交流プラザの隅々まで見て歩いた後、開催されている施設の見学をしました。広いグラウンドがあって、モンテディオ山形の事務局が施設内にありましたから、サッカー場かと思っていましたら、スケート場でした。屋外リンクはなじみが無い(岐阜県は恵那にありますね)ので思いつきませんでしたよ。

15時から第1体育館で式典が開催されました。

賑やかな花笠音頭で幕開きです。花笠音頭はもともと「土突(どんづ)き唄」が元唄となっているのですが、

現在の賑やかな伴奏を入れて歌謡曲かしたのは昭和になってからだそうで、地域によって踊り方がいろいろあります。いつものように挨拶、表彰と進められつつがなく式典は終了。来年の開催は佐賀県です。案内が佐賀建築士会の皆さんの皿をカチカチと鳴らす行進から始まり、舞台上で開催旗の受け渡しが行われました。来年も金曜日の開催で10月23日です。1週間後にインターナショナルバルーンフェスタが開催されるので準備中の世界のバルーンを見ることが出来るかもしれません。

式典が終了後、シャトルバスで懇親会場のパレスグランドに移動です。

懇親会は民謡のアトラクション後、大学生の花笠音頭が賑やかに披露されました。傘をつかってダイナミックに踊る男性的な踊りには圧倒されました。また第2会場が畳敷きとなっており、ミスさくらんぼとの記念撮影に鼻の下を伸ばしているおじ様方もおり、リラックスした雰囲気を楽しむことが出来ました。



第3日目 10月17日(土)

地域フォーラム・エキスカッションはBコース「羽州街道・檜下宿と芭蕉の山寺探訪」に参加し、山寺の1070段の石段を制覇してきました。

今回は2人だけの参加でしたので、なかなか動き回ることには出来ませんでした。車でこられた方々のなかには、庄内(酒田)のほうや最上・置賜に足を伸ばした方もいらしたようです。

